

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005年 3月31日作成)

委員会名	鉄骨超音波検査小委員会	主 査 名：田中 剛
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工委員会 (鉄骨工事運営委員会)	委員長名：嵩 英雄
設 置 期 間	2002年 4月 ～2006年 3月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>現行の「鋼構造建築溶接部の超音波検査・同解説」が制定された当時においては、研究開発途上の新しい技術であったSH波を用いた探傷法に関する研究資料を収集・分析し、SH波探傷法の技術を確立させる。また、柱梁溶接接合部における溶接欠陥位置・寸法と溶接部の強度、梁の塑性変形能力の関係を、実大の柱梁接合部実験に基づき検討し、欠陥と部材の構造特性の関係を明らかにする。以上の検討結果を「鋼構造建築溶接部の超音波検査・同解説」の改定に反映させる。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	田中剛 (神戸大学)・倉持貢 (清水建設)・石井匠 (JFE 技研)・石原完爾 (大手町ファストスクエア)・上平綱昭 (エンジニアリングサービス)・川口淳 (三重大学)・工藤憲二 (駒井鉄工)・坂本真一 (清水建設)・嶋徹 (戸田建設)・鈴木孝彦 (新日本製鉄)・津山巖 (日建設計)・中込忠男 (信州大学)・橋田知幸 (片山ストラテック)・藤本信夫 (鹿島建設)・笠原基弘 (ジャスト)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2004 年度予算	150,000円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	平成16年5月11日(8名)・平成16年7月13日(11名)・平成16年10月6日(10名)・平成16年11月30日(13名)・平成17年2月1日(9名)・平成17年3月31日(8名)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 固形タブを用いた場合に発生し易い溶接部始末端の溶接欠陥の探傷方法に関する研究資料を検討した。 ・ 欠陥の種類や欠陥高さを含めて、どの程度の精度で検出が可能であるかに関する研究資料を収集した。 ・ 溶接部に人工欠陥を挿入した骨組構造実験、単純引張実験に関する研究資料を収集・分析した。 ・ 溶接欠陥位置・寸法と接合部の強度、梁の塑性変形能力の関係を検討した。 ・ 破壊力学的な観点から許容できる欠陥の寸法の検討を始めた。
	委員会 HP アドレス：
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2006年3月脱稿予定の「鋼構造建築溶接部の超音波検査・同解説」改定に向けての活動を本格化させている。 ・ 当初の活動計画に沿って、小委員会の開催・活動を行っている。
その他評価すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少ない予算の中、小委員会および作業グループの打合せ会を開催し、活動成果の量と質を落とさない努力をしている。